

「松江の地名の由来は何ですか？」

佐和田 丸（10期）



私は以前から、「松江」の地名が中国伝来の地名だと喧伝されていることに、釈然としないものを感じ、真相はどうかとあちこち調べたりしていた。古くからある有力な説は観光誌などによれば、大体、次の三説である。

（一）『懷橘談』『雲陽誌』という江戸期の地誌によるもので、松江城を築いた堀尾吉晴が松江の風景が湖面に美しく映え、鱸(すずき)や蓴菜(じゅんさい)を産するところが中国浙江省の淞江府(ずんこうふ)に似ているとして命名したという説。

（二）新井白石の著『紳書』によると、堀尾氏の家臣で松江城の縄張工事にあたった小瀬甫庵(おぜほあん)が「鱸の名所也」として命名したという説。

（三）『雲陽大数録』では圓成寺（堀尾氏三代の廟所）開山春龍和尚の命名とし、「唐土ノ松江、鱸魚ト蓴菜ト有ルカ故名産トス、今城府モ其スニコウニ似タレバ、松江ト称ス云々」と記されているという説。

そして、昭和53年(1978)には、島根大学の入谷仙介教授も地元新聞に、命名に苦心していた堀尾吉晴が、渡明の経験のある春龍和尚の進言もあって「松江」を採用したのではないかという推論を発表されたりしていた。

私が関心を持ち始めたその頃、平成10年(1998)、和歌山であの毒物カレー事件があり、現場の近くに「松江地区」があると知り、角川地名辞典で調べてみたら、昔は松林に囲まれた美しい入江で、名前もそれに由来し、今は埋め立てられ広大な日本製鉄和歌山製鉄所となっている、とあった。

私はその時、和歌山でそうなら、古代からの人間の営みの盛んなわが「松江地帯」にも、昔から「松林に囲まれた入江」があって、「松江」と呼ばれていたと考えるのが、中国伝来の地名よりはるかに自然ではないかなと感じたが、そのまま今日まで来てしまった。

最近になって漸く郷土史家の先達である藤岡大拙氏が、『松江』の地名は開府以前からあったという論考を「松江開府 400 年 松江藩の時代」（平成 20 年山陰中央新報社）の冒頭に掲載されていることを知った。既にその前の平成 13 年 3 月には「湖都松江」創刊号の特別稿に「椿説 松江地名考」として掲載されていたことも。

それによれば、「天文 3 年（1534）、越前福井の人、大森正秀が出雲大社参拝の旅を「出雲紀行」として著わしている中で、“出雲の松江の府に至ったら、その錦浦は磯馴松（そなれまつ）生い連なる美しい風景であった”と記している」とのこと。

藤岡氏は、「松江の府」はおそらく意宇川の河口あたり、「錦浦」は出雲郷の南岸あたりではないかと推論され、その 70 年後の松江開府時に、堀尾吉晴はその狭い地帯の地名の「松江」を、末次、白潟二郷を含む広い地帯の地名に拡大して採用し、それが中世から近世の松江への転換点となったと論考しておられる。

私には、藤岡氏の、少なくとも松江開府の 70 年前には（もっと前からかもしれない）、「松江」という地名が狭い地域であったにせよ存在していたという史実に即したこの論考は、和歌山の松江を知って以来、疑問に思っていたことが氷解して、おおいに納得するものだった。

考えてみれば、当時は中国の地名を拝借したとする方が確かに重みがあったのかもしれないが、私はこの藤岡氏の説も（四）番目に加えて観光誌などでも紹介し、これからの研究、歴史の評価を待てばいいと思う。

出雲人である私は、この（四）が一番腑に落ちるが皆様はいかがであろうか。

以上



意宇川河口付近にあった錦浦の様子
（「松江藩の時代」か）

「松江開府 400 年 松江藩の時代」

（平成 20 年山陰中央新報社）

-----事務局より-----

佐和田丸氏の（北高 10 期/S34 年卒）の多彩な日常を紹介いたします。

HP 近畿双松会会報 2013 web 版 83 p 掲載

補遺 近畿双松会会報 2014 web 版 48p49p

島根県 PR 大使・遣島使（けんとうし、遣唐使をもじったもの）

松江観光大使 飯南町応援団 浜田応援団 北海道伊達市心の市民

佐和田登記測量事務所（松江市）顧問

佐和田丸事務所

佐和田丸総合研究所代表

KK ユニバーサルコンサルティング顧問

島根県知事表彰（県政功労 平成 22. 11. 3）

頓原町長表彰（現・飯南町 町政功労 平成 16. 12. 19）

元近畿島根県人会役員現会員 元近畿広島県人会会員

元関西頓原会会長 元近畿飯南会顧問

三大琴会会長 縁結びボランティア 雅号大峰

飯南町、松江市、島根県、山陰へお嫁にきませんか。移住しませんか。

[大しめ縄の聖地 パワースポット 日本&世界一大しめなわ創作館 神々のふるさと山陰](#)

沖縄宮古島 佐和田の浜、佐渡が島 佐和田温泉 勝手応援団（佐和田姓のルーツ）

「出雲大社神楽殿大しめなわ 6 年ぶりの掛け替え」近畿双松会会報 2018、74p web 版でご覧ください。

森林セラピーの聖地、島根県民の森大万木山(おおよろぎさん, 寝仏山、シャカ岳、HP 参照。)

に、大階段1時間登頂コース誕生!

国道54号頓原または松江道高野ICから草峠をへて快適な舗装林道約30分で大階段下P。

ここからわずか200m、約1時間登れば頂上。大ブナ原始林、タコブナ、陰陽の展望等、天空の爽快郷、楽しみ一杯です。

304階段にちなみ、「悩み去れよ」コースの愛称もあり、悩みを持つ人が殺到する人気コースとなっている。

県民月一度は大万木山に登り、日頃の悩みを解消しましょう。

いいけん、島根県、美肌ご縁県。

最後までお読みくださって「だんだん」。「だんだん」は、出雲弁でありがとうの意味です。